学会報告

第40回日本小児神経外科学会を岡山で開催して

The 40th Annual Meeting of the Japanese Society for Pediatric Neurosurgery

会長　伊達　勲（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　脳神経外科学）

Isao Date（Department of Neurological Surgery，Okayama University Graduate School of Medicine，Dentistry and Pharmaceutical Sciences）

会長挨拶（伊達　勲）

第40回日本小児神経外科学会を2012年６月７日（木）と８日（金）の２日間，会長として岡山コンベンションセンターで主催いたしました．また，６月９日（土）には本学会と日本脳神経外科学会の共催で小児神経外科教育セミナーを開催し，３日間で全国から約500名の脳神経外科医が参加し，活発な討論が行われました．演題数は総数で約200となり，３会場に分かれての開催となりました．小児神経外科分野は脳神経外科のサブスペシャリティーの中で重要な位置を占める分野であり，本学会を岡山で開催するのは初めてということもあって，主催を大変光栄に感じるとともに，無事に学会が終了し，関係の皆様には深く感謝申し上げる次第です．

本学会は治療の対象が小児患者ですので，従来は学会のテーマには社会的要素を含む問題が多く取り上げられてきました．今回，第40回という節目の学会を主催するにあたり，脳神経外科治療の原点である「手術」に関する討論を中心にし，テーマを「小児神経外科疾患への手術の貢献」といたしました．この分野で手術に関しての議論の多い，「グリオーマ」「頭蓋咽頭腫」「モヤモヤ病」「頭蓋骨縫合早期癒合症」「二分脊椎・二分頭蓋」「神経内視鏡」をシンポジウムとしてとりあげ，手術の貢献を中心に討論を行いました．また「ビデオシンポジウム」として，各施設での手術のセッティング（モニタリング，ナビゲーション，頭位固定，体位のとり方など）について外回りのビデオを見せていただき，大変参考になったと思います．

特別講演には，ボストン小児病院脳神経外科の Dr Edward R. Smith をお呼びしました．Dr Smith はモヤモヤ病などの小児脳血管障害を中心に多くの業績をあげておられる先生で，今回の特別講演では「小児脳血管障害の外科治療」と題して，虚血性・出血性脳血管障害について豊富な治療経験に基づくお話をいただきました．また，教育講演として，ボストン小児病院での脳神経外科手術のセッティングと手術の実際の様子をビデオを多く使ってみせてくださり，会員一同に寄与するところ大でした．日本小児神経外科学会

岡山駅新幹線口に表示された本学会の案内

平成24年８月受理
〒700-8558　岡山市北区鹿田町２－５－１
電話：086-235-7336　FAX：086-227-0191
E-mail：idate333@md.okayama-u.ac.jp

(JSPN)は，韓国小児神経外科学会（KSPN）と大変良好な交流関係にあり，今回の学会でも，KSPN を代表して，Ulsan 大学から Dr Young Shin RA，また Seoul National 大学から Dr Seung-Ki KIM においでいただき，それぞれ，「頭蓋咽頭腫に対する低侵襲手術」と「髄芽腫の脳脊髄液播腫」の教育講演をしていただきました．

学会40周年を記念する企画として「40周年を迎えた小児神経外科学会の未来：神経科学に隠されたヒント」を開催しました．脳神経外科の進歩には神経科学の基礎研究から得られる知見が重要であることは言うまでもありません．特に小児神経外科はその重要度が高い分野です．この企画には 4 名の先生に神経科学の最先端のお話をしていただきました．名古屋市大の澤本和延先生には「脳室周囲に存在する幹細胞による神経再生機構」を，三重大学の池田智明先生には「周産期医学と再生医学」を，岡山大学の徳永浩司先生には「モヤモヤ病と血管新生因子」を，岡山大学の大塚頌子先生には「脳の発達とてんかん」をそれぞれ講演いただき，今後の脳神経外科臨床への応用の「ヒント」となったと思います．小児の脳は，成人に比べて再生能力に優れていることは従来より知られていますが，今回の企画での発表内容は，その再生能力をさらに高めていくための手段として大いに期待ができるものでした．

小児神経外科の関連臨床領域からも教育講演を 3 つお願いしました．「小児集中治療の最近の話題」を京都府立医大の志馬伸朗先生に，「胎児外科：その現状と展望」を国立成育医療センターの千葉俊雄先生に，「小児外科：一般的な鏡視下手術」を岡山大学の野田卓男先生にお話いただき，参加者の皆さんからは日常の臨床に役立つ話であった，と好評でした．

演題数が200題と多数になり，どのように会場を設定するかいろいろ悩みましたが，原則として，1．特別講演，教育講演の時は 1 会場とする（plenary session とする），2．ポスタープレゼンテーションでなく，全演題を口演形式とする．3．数例以内の症例に関する演題は症例報告演題として，一般演題より口演時間を短くする，ことを決め，全演題を無事 3 会場で発表いただくことができました．岡山コンベンションセンターの 1 階と 3 階の間を学会参加者の皆さんには上がったり下がったりしていただきましたが，特に大きな混乱はなかったと思います．

会員懇親会を学会 1 日目の夜開催しましたが，岡山地元のＢ級グルメの屋台にはかなりの人気があり，すぐに売り切れてしまったようでした．参加者の皆さんは会員懇親会で親睦を深め，さらに二次会でもたくさんの方々が岡山の夜を楽しんでくださいました．

岡山大学脳神経外科教室では，本学会の半年後（2013年 1 月）に同じ岡山コンベンションセンターで第52回日本定位・機能神経外科学会を主催いたします．今回の日本小児神経外科学会の開催にご協力・ご支援いただきました皆様に感謝申し上げますとともに，来る日本定位・機能神経外科学会におきましてもご指導のほど，よろしくお願い申し上げます．

会員懇親会場にて，岡山大学脳神経外科のメンバー